

守礼の光

SHUREI NO HIKARI

4
1970

四



EXPO'70

clickokinawa.com

守礼の光

SHUREI NO HIKARI



4 月号

APR 1970

目 次

よりよい理解に向かって	1
世界のマグロを守ろう	4
米軍従業員に対する恩典	6
発足した検察審査会制度	石崎清馨…10
学園に咲く芸術の花	12
生け花 *春。	14
日本の産業に超近代的原子炉	16
先島の畜産業者ハワイを訪問	宮国清一郎…18
古琉球の芸術家 音楽家 (2)	仲泊良夫…24
琉球昔話 覚えていた王様 (2)	せそこ・ちずえ…26
読者のサロン	28
読者の花かご	29

● 「守礼の光」は琉球列島米国高等弁務官府の出版物です。



1~3ページ参照



6~9ページ参照



18~23ページ参照

● 今月の表紙

有名な芸術家岡本太郎氏の手になる「太陽の塔」はEXPO'70のシンボル。

● 裏表紙

北部沖縄の春。

よりよい理解に向かって

EXPO'70は、三月十五日から六か月間の会期をめぐりて開幕しました。七〇余か国のほか、カナダの三州ワシントン、ハワイの両州とサンフランシスコ市が数多い日本の企業団体とともに、それぞれ独自のパビリオンを建設して、このマンモス博覧会に参加しています。

エキスポ'70を管理するため設立された、財団法人一九七〇年日本万国博覧会協会の予想では、今年の三月から九月までの期間中、少なくとも一〇〇万を超える海外からの観客を含めて約五〇〇万人の人々が、大阪市の北東約一六キロの千里丘陵に建設された七九の外国展示館と、三〇の国内展示館が立ち並ぶ三三〇ヘクタールに及ぶ万博会場を訪れるものと見込んでいます。協会当局はまた、アメリカ館はその独特な建物と魅力的な展示品で最も入場者の多い展示館の一つになると見えています。

アメリカ館は、アメリカの都会の一部をそっくり移したようなアメリカカバークと、オーストラリア館の一本の「スカイフック（高く伸びたかきのような曲がった塔から屋根をぶらさげる建築）」との中間、展示会場の南側に沿って立ち並び、エキスポ'70のどの展示館より低い建物なのです。高さは建物の西側に立つサクラの茂みをわずかに越えるぐらいです。

空、エキスポ'70の動く歩道、あるいはモノレール

から見おろすと、この白い展示館は、だ円形の超大型マットレスのように見えます。このエアドーム式の「ケーブルで補強された屋根」はこの種のものとしては初めての試みで、二つのサッカー場がすっぽり収まる大きさの場所をおおっています。夜になると半透明の屋根は、おわん状の内部に張られた鏡の反射照明を受けて輝きます。

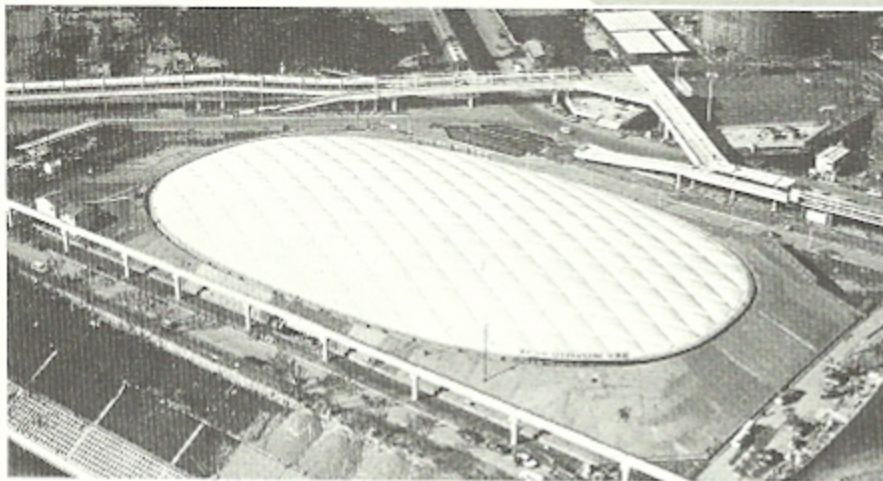
幅八メートル、長さ一三九・五メートルのアメリカ館は、これまで建築されたものでは最大の柱のないエアドーム式屋根を持っています。屋根の重さは一平方メートル当たり四キロで、この種の屋根としては最も軽いものです。屋根は網の目のように張りめぐらされたケーブルで安定され、送風機を使って内部気圧を外部気圧より少し高めにするこゝによって支えられるしくみになっています。

屋根の下

入場者はトンネルのようなコンクリートの通路にある回転ドアからアメリカ館にはいります。中にはいると、大きな浅い、鏡張りのおわんの中央に収まっているように見える、三層に仕切られた骨組みの建物があります。下層は管理施設になり、展示会場には上、中層が設けられています。

この展示館入場者を案内するのは、二一才から三〇才までの日本語の話せる六〇人の若いアメリカ人男女です。ファッション・モデル、ロデオ競技者、

風変わりなアメリカ館の屋根。右上は大阪千里丘陵の万博会場の一部。



EXPO'70



鏡の壁に囲まれたカナダ館の内部ではカサ型の車輪が回っている。

潜水夫からソシアル・ワーカー(社会奉仕者)までのさまざまな職歴を持つこれらガイドのほとんどは、以前日本に滞在していたことがあります。彼らは皆日本の文化、伝統、歴史の基礎知識を身につけており、もちろん自国の政治、経済、そして文化の面に精通していることはいまでもありません。

展示は総括して「アメリカのイメージ」と名づけられています。七つのおもな分野に分かれた展示は、アメリカ人とはどんな国民か、どのような場所での生活しているか、文化、科学、技術の面でどのようなものを生みだしてきたかをエキスポ観覧者に知らせることにポイントが置かれています。

最初の展示は「写真家一〇人展」で、これは一〇人の著名な写真家が現代アメリカの人々や国土を撮った一〇枚に及ぶ記録写真の展示です。

写真展から歩を進めると、ニューヨーク市メトロポリタン美術館から出品された、一八世紀から二〇世紀までのアメリカ絵画の代表作を展示する「アメリカ絵画展」へと移ります。

「スポーツ展」は、建物上層に展示されたこれら三つの展示会場の最後にあるもので、高速度撮影フィルムの上映、実際に使われたスポーツ用具、著名スポーツ選手の出演など、いろいろなやり方でアメリカスポーツ界のパノラマを紹介します。会場にはベーブ・ルース、ウォルター・ジョンソン、ジョー・デマジオなど偉大な野球選手が実際に使用したロケットが、選手愛用のユニホーム、用具といっしょに展示されています。

月旅行

アメリカ館最大の呼び物は「宇宙開発展」で、関係者は最も入場者の多い展示場になるだろうと見えています。展示には宇宙開発でアメリカが成し遂げた業績を示すため、アポロ11号による人類初の月着陸に力を入れています。

「宇宙開発展」に展示されているかざかすの宇宙

機器はみな本物です。すなわち、アポロ8号カプセルのように実際に宇宙を飛行したものか、月着陸船のように飛行可能な、技術テスト用のものなどです。これらの展示品を出品した米国防航空宇宙局(NASA)と国立博物館(スミソニアン・インスティテューション)は、本物がエキスポ館に展示されているあいだ、本国の展示にはこれらの「模型」を使っています。

「宇宙開発展」の近くに「建築展」会場があり、そこでは明かるく大きく映し出されたカラー・スライドで、広範囲にわたるさまざまなアメリカの建築様式を紹介しています。写真はカラー・スライド用に特別設計されたいろいろな映写室から映されるのです。

また「民芸展」は、これまでアジアで開かれたアメリカ民芸展のうちで多くの展示品を集めた最も大規模なものです。アメリカ原住民の民芸品——インディアンとエスキモーのもの——にはお面、焼き物、織り物、彫り物、トートムポール、宝石細工や、かご細工などがあります。

これと対照的なのは「ニューアート展」でしょう。展示には、アメリカの美術家と産業界の共同の冒險的企画から生まれた前衛作品が、何点か出品されています。この企画は「アート・アンド・テクノロジー(美術と産業技術)」と名づけられ、二〇名の美術家が彼らの最も野心的な構想のいくつかを作品に表現しようと、約四〇の米大企業の財政、技術面の援助を受けて成しえたものなのです。エキスポ館のため特に立てられたこの企画で、美術家たちは絵の具や粘土などおなじみの素材を捨て、プラスチックや熔融鋼などの新素材、それにレーザー光線写真などの新技法を駆使しています。

舞台裏で

これほどの野心的な展示品を、日本で一堂に集めるために払われたたいへんな努力は、アメリカ館にはいったただけでわかるものではありません。

この作業責任者は四五才になるアメリカ広報社のジャック・メイシー氏で、彼は第二次世界大戦中、米陸軍で軍務に服したのち、一九四五年にニール大学に入学し、デザイン科を卒業しました。彼はニューヨーク市で昼はデザイン会社に勤務するかわり、コロンビア大学夜間部に学んでいましたが、一九五一年に米広報社の海外勤務の職を得たのです。

以来彼は、インド、アフガニスタン、ソ連などで博覧会の準備を担当してきました。一九五〇年、モスクワで仕事をしていたとき、博覧会も今週で終わりというときにブラインド・デート（第三者の紹介によって未知の男女が行なうデート）で知り合ったのが夫人のメリー・ルーさんです。スラブ語にたんのうなメイシー夫人は、アメリカの化粧品会社の展示会場でガイドを勤めていました。

ソ連で約六年間、アメリカ文化博覧会の監督をしたのち、メイシー氏は一九六三年、カナダのモントリオールで開かれたエキスポ'67のアメリカ館の建設作業を監督する仕事を与えられました。この任務を終えたとすぐに、彼はエキスポ'67へ関心を向けたのです。

アメリカ館に採用されたエアドーム式屋根の設計は、メイシー氏が第二次世界大戦中に米陸軍で「いろいろな物をふくらませる」任務に就いていたときのことを思い出させるとのことですが、当時彼はゴム製の擬装タンク、ジーブ、大砲に空気を入れる部隊の隊員でした。

「わたしが心からうれしく思うのは、この博覧会がほかではやってみることができないような実験の場を与えてくれたということです。」

と語ったメイシー氏は、展示場の企画・設計をするときと同じ熱意をこめてこう付け加えています。

「もちろん、幅広く応用できる土台となるような建物を設計することは、設計者にとって偉大な挑戦ですが、ヘモントリオールのエキスポ'67のカナダ館ドームの設計で、バックミンスター・フラー氏はそれをやり遂げたのです。そしてそれにま

さるものをわれわれは日本で作ったのです。アメリカ館に採用されている建物の様式は、経済的なばかりでなく、あらゆる用途に利用できる無限の可能性を持っています。」

アメリカ館は建築家ふたりと設計技師三人からなるチームが考案したのですが、みな若く「彼らは単なる飾りのような建物ではなくそれ以上のものを作ろうとした」とメイシー氏は語っています。

メイシー氏の意見は有名な日本の建築家、丹下健三氏がアメリカ館は「実用を考えて設計された（エキスポ'67）で数少ない建物の一つ……」と述べたことで裏づけられています。

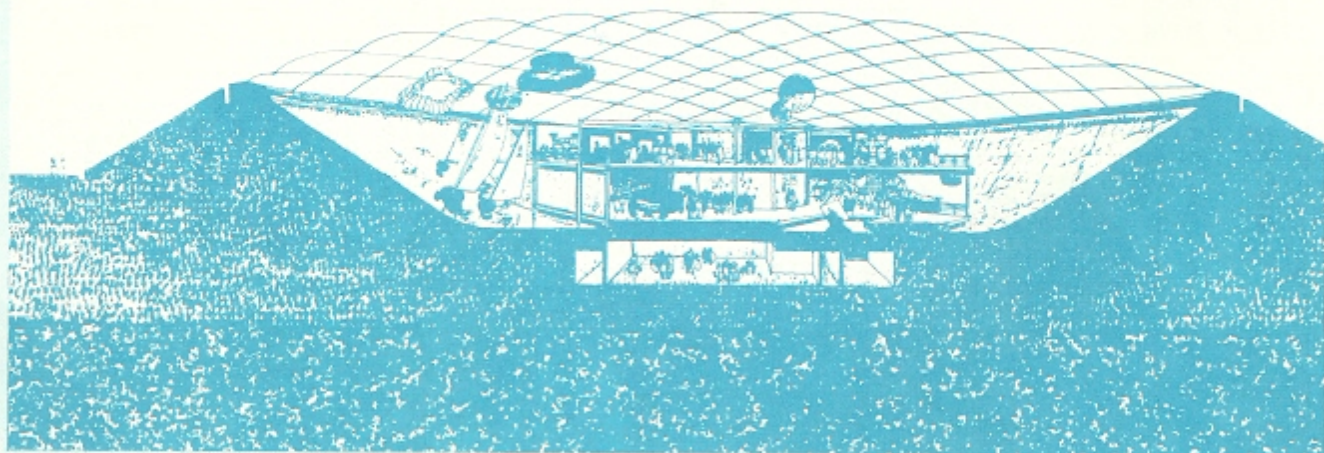
有意義な目標

エキスポ'67担当の菅野和太郎前国務大臣が述べたように、エキスポ'67は「参加各国が力をそそいだ展示を通じて友情をはぐくみ、われわれの究極の目標——人類の進歩と調和——を達成していく転機ともなるまたとない機会になるでしょう。」

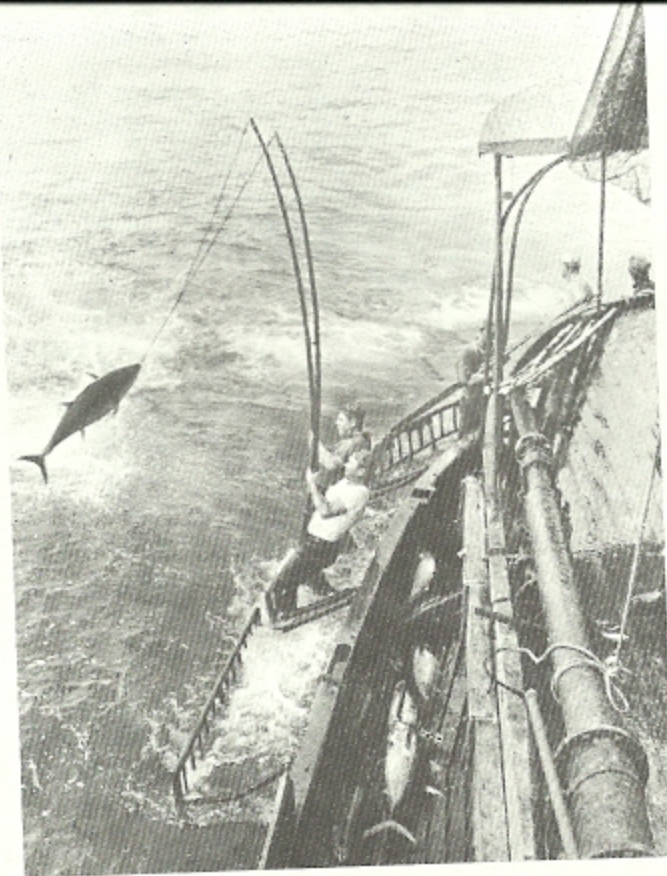
アメリカ館はこの有意義な目標に到達しようという諸外国、各種企業、団体が建設した一二〇の展示館の一つにすぎません。けれども、アメリカ館の建設は日本で初めての万国博覧会を一九九九年の万博史上最大規模のものにする役割の一端をになっているのです。参加諸国、企業、団体は館内の展示品を集める費用を除き展示館建設費だけで二〇〇〇億円を費やしています。展示は、一八五一年水晶宮で開催された第一回万国博覧会「ロンドン・ユニバーサル・エキシビション」以来、世界各国がさまざまな分野で成し遂げた大きな進歩の跡を示すものです。

アメリカ国民は、日本の佐藤栄作首相の声明にある「われわれはこの万国博覧会が、人類と世界のよりよい理解に向かう偉大な飛躍にはならないにしても、その貴重な一歩となるため最善を尽くす」という目標に沿ってアメリカの貢献を誇りに思うでしょう。

アメリカ館の内部。



世界の マグロを守ろう



一本づりによる旧式のマグロ漁法。新式の引き網漁法で漁獲量は3倍となり、世界のマグロ資源を脅かしている。

マグロは海の食用魚の中では、注目すべき魚である。というのは、食用部分の多い、骨抜き身は、おいしい調理法が数えきれないほどあって、世界中の国々で賞味されているからだ。このためマグロ漁業およびマグロ食品産業は、いまや大きな国際的産業となっている。

しかし、この産業もマグロフィッシュの味覚も、いまや深刻な脅威に直面している。食品取扱業者は近い将来マグロ資源が減るのではないかと心配している。

全米熱帯マグロ委員会の理事長ジョン・L・カスク博士は、「現状でも、すでにマグロをとる漁船の数が多すぎると言っている。同博士はマグロ

が、乱獲と十分な国際的保護を欠いたため、すでに絶滅に近い種と同じ運命をたどらないうちに、マグロ資源を保護するため世界会議を早急に組織するよう力説している。

博士はまた、世界のマグロの研究と科学的な漁獲のために国際連食糧農業機構の援助で国際条約を締結することを勧告している。同機構にあてた最近の報告書の中で博士は「漁船の数が多すぎて資源保護処置の効果があがらず、そのため世界のマグロ漁業国は、善意ではあるが実情に暗い漁民や漁業会社のすべてが、経済的困難をこうむらないうちに急速な処置を講ずることが必要である」と述べている。

危機にひんするキハダマグロ

カスク博士がいちばん関心を持っているのは、マグロの中でも高く評価されているキハダマグロである。現在キハダマグロの漁獲は、太平洋東部熱帯海域で割り当てによって規制されている。この海域はカリフォルニア州サンディエゴを根拠地とする米国の大型マグロ漁船団の伝統的漁場である。

漁船団に対する一九六八年の割り当ては、十萬六千トンであった。この割り当て量は六か月間で捕獲されてしまった。この漁獲割り当ては全米熱帯マグロ委員会が設定し、同委員会は一九六六年よりキハダマグロの制限を実施している。この処置は、生物学者や統計専門家による長年の事前調査の結果とられたものである。

この制限にもかかわらず、キハダマグロを求める漁船団は米国内の増大す

るマグロの需要を満たすため、恐ろしい勢いでふえ続けてきた。この傾向は、世界中のマグロ漁船団の間でも繰り返り起きている。

漁船団の拡張

過去五十年間、十年ごとにマグロの需要はほぼ倍増している。サンディエゴのキハダマグロ漁が始まった一九一〇年にはマグロのかん詰め約十萬ケースが製造され、一九二〇年には五十萬ケース、一九五〇年には九百五十萬ケース、そして一九六五年には二千三萬ケースが製造された。需要がふえれば利益もふえる。こうした現実を前にして保護手段を講ずることはなまやかしいことではない。

一九六七年には四萬トンを上回る程度であった米国内マグロ漁船団の積載量は、一九六九年末には五萬トンを軽く越えるものと予想されていた。さらに一九七〇年および七一年に引き渡し予定の船が加わる結果、五千トンが増加することになっている。現在米国旗を掲げている外洋マグロ船団は百三十三隻で、ほかに建造中のもの六隻、建造を計画中のもの八隻がある。

十年前には二百五十トンの積載量といえはかなり大型のマグロ船であった。それが今日ではどの船も七百トンから一千トンのマグロを積んでどこへでも運び、魚を求めて必要な世界どこへでも行くことができる。

技術の改善

最新式マグロ漁船の代表的なものに、サンディエゴで建造された三隻が



ある。一隻当たり百五十万ドル(約五億四千万円)の工費で、船の長さ五十メートル余り、マグロ七百トン積載、十六ノットで走り、へやには、じゅうたんをびっしり敷きつめ、漁場への長期間の航海中乗組員にレコード音楽を聞かせるなどの設備を備えている。

最新式マグロ漁船は大型になったばかりでなく、より多くの魚を短期間に捕獲できるよう技術的改善を施している。過去十年以内にはほとんどすべての米国漁船団は旧式の一本釣り漁法から引き網漁法に転換している。この漁法は魚群を一網打尽にする巨大な網を使用する。この漁法の採用で各船団

市場に運ばれるマグロ。どれも骨のないおいしい身がたくさんとれ、いろいろに調理できる。

は、以前九十日またはそれ以上かかったものを三十日でとることができる。米国漁船団が主として引き網でとるのに対し、日本漁船団は、はえなわ漁法を行なっている。この方法では、長い縄に幾干もの餌つき釣り針を付けて、多数の魚を一時にとる。ときには大きな魚群の場合でも一本釣り漁法だけを行なうこともある。この簡単な道具を持って日本漁船はマグロのとれる海洋いたるところを走り回っている。

楽観的な漁業者たち
カスク博士のような魚類保存を唱える人たちは、最新式漁法によって得られる世界のマグロ資源が絶滅するかもしれないと警告している。

漁業の漁師たちは巨大な網を使用する。この漁法は、世界のマグロ漁獲量を非常に増大した引き網漁法に似ている。

ないと考えているが、多くの職業漁業者たちはこの考えに賛成したがいらない。彼らはマグロが減っているのは認めているが、徹底的に世界の他の海洋を探索すれば必要なすべての魚、特にキハダマグロがとれると信じている。

昔、カリフォルニアから出漁できる太平洋海域で操業していた漁業者も、すでにプエルトリコを根拠地としてキハダマグロやカツオをアフリカ西海岸沿いでとっており、この付近は豊漁であると報じている。また、南大西洋やさらに印度洋まで、引き網漁業の隠れた好漁場として目をつけているマグロ船の船長たちもいる。もともと、日本人ははえなわ漁法で長年にわたりこれ

らの海洋を開拓してはいる。カリフォルニア州の漁民たちは組合をつくらせて、西太平洋での引き網漁業の開発に関心を向けている。

主要漁船団

現在、十か国が、サンディエゴ漁船団が昔から漁場に行っている東部太平洋熱帯海域で、マグロをとっている。この海域への新参である日本は今年四隻の大型引き網船で操業するものと見られている。カナダとエクアドルもマグロ船団を拡張中で、カナダはまたアフリカ沿いにも関心を持っている。

一九三八年にはマグロの全種別を通じて世界の総漁獲高は約三千万トンであった。一九六六年にはこの数字は九十三万トンに上った。つまり新造漁船が進水することに世界のマグロ資源に新たな脅威が加わっているのである。

世界的な船団の増強で保護措置の採用は困難さを加えるばかりである。新造船に巨額の投資をした船主たちは、自分たちの漁獲や利益を制限されることに当然抵抗する。そのうえ、どの国も他国のマグロ漁業者すべてが制限に同意するまでは、進んで自国の漁獲に制限を加えようとする。このため魚資源の保護を唱える人たちは、世界のマグロ漁獲高を規制するのは因連で扱った問題だと考えているのである。

いずれにしても、なんらかの処置が講じられなければ、「キハダマグロは、おそらく鯨のたどった道を歩むことになる。」と悲観的見解のカスク博士は語っている。



このほど、高等弁務官付再雇用調整官に任命されたウィリアム・T・パーク氏は高等弁務官に対する諮問委員会日本政府代表、高瀬侍郎氏を訪問した。

米軍従業員に対する恩典

新 しい年一九七〇年にはいって、米政府雇用の約三万六千人の地元従業員は、琉球政府厚生年金保険制度の規定による新たな恩典を受けることになった。

一九七〇年一月一日付をもって、米政府直接雇用の地元従業員二万六千人および米国関係業務請負業者の従業員一人に対し、五人以上を雇用する民間事業者の従業員に対すると同様の受給資格が与えられた。この新しい制度では、老齢年金、障害年金および障害手当、遺族年金等が支給される。

米国関係の地元従業員は、すでに琉球政府の失業保険制度および医療保険制度に加入している。

この新しい厚生年金法に基づき米軍の拠出する金額は、割り当て資金による直接雇用および、割り当て資金によらない間接雇用の従業員の給料から差し引かれる保険料と同額の、およそ百万ドルに達するものとなる。さらに、約三十三万ドルが契約業者によって支払われ、これと同額をそれらの従業員が負担する。契約業者とその従業員の保険加入は琉球政府の厚生年金法に規定されている。

「米軍に働く地元従業員に対する今次の琉球政府社会保険制度の適用は、沖縄の日本本土への一体化が推し進められている段階での重要施策の一つである。本土の駐留軍従業員は、日本の厚生年金法の適用を受けているが、琉球政府の厚生年金法も日本のそれと合わせてよく似ている。」とランパート高等弁務官は述べ、さらに、

「当地における米軍は、法的には琉球政府の年金法に加入する必要はないが、さきに琉球政府の失業保険制度および医療保険制度が、それぞれ一九六〇年および一九六六年に施行されたときと同様、自主的に加入することを決定した。」と語っている。

老齢年金は、この制度の施行後、四年間勤務した資格取得者すべてに支給されることになっている。これに該当するには、男子は六十才以上、女子は五十五才以上でなければならない。障害者となった従

業員および、死亡した従業員の遺族は一九七〇年七月一日以降に受給資格を得ることになっている。

障害年金および遺族年金の受給資格は、加入期間が六か月以上であり、かつ廃疾あるいは死亡の原因となった病気または事故の発生当時、この制度に加入していたものでなければならない。

琉球政府の年金制度が日本本土の制度より遅れて施行されたため、琉球政府の年金法では被保険者となった期間が四年以上であれば老齢年金が支給される特別規定が設けられている。本来、このような給付は少なくとも二十年間の加入期間があつてはじめて支給されるものである。

琉球政府が定めたこの制度の保険料率は、日本の厚生年金法のそれと似ており、次のとおりである。すなわち、

男子（船舶乗務員を除く） 給与月額額の五・五％
 女子（船舶乗務員を除く） 給与月額額の三・九％
 船舶乗務員 給与月額額の六・七％

退職後の継続保険料

五・五％

従業員が米軍から民間企業に、あるいは民間企業から米軍に転職する場合も、この制度に加入した期間は継続して計算される。

離職者に対する給付金

米軍施設の人員削減のため、従業員が失業した場合には、離職者に対して次のような特別給付金制度がある。

一、ほかの給付金に加えて、米軍は退職者に対し退職金を支給する。人員整理による退職の場合の退職金は次のとおりである。

退職金は自動的に支給され、離職者がその支給申請をする必要はない。この退職金は各該当者が最後の給料を受け取る際に支給されることになるはずであるが、これが不可能な場合には、次の通常給料日に支給される。

二、自己退職の場合の退職金。人員整理の期間中は、自己退職者に対しても整理対象者と同様前記退職金が支給される。普通の場合の退職者に対しては次のように退職金は減額されることになる。

勤務年数

6か月以上5年未満	基準給月額×勤務月数× $\frac{1}{2}$
5年以上10年未満	基準給月額×勤務月数× $\frac{1}{2}$ ×120%
10年以上	基準給月額×勤務月数× $\frac{1}{2}$ ×130%

退職金合計

退職金合計

5年以下	なし
5年以上10年未満	基準給月額×勤務月数× $\frac{1}{2}$ ×50%
10年以上	基準給月額×勤務月数× $\frac{1}{2}$ ×100%

勤務年数

三、休暇の一括買い上げ。退職に当たり、各従業員の保留する年次休暇に対しては、一括して相当金額、つまり各人が権利として持っている年次休暇の未使用時間数に対する時間給相当額が支給される。この場合各人に対する支給額は二百四十就労時間を最高限度とする。この休暇一括買い上げ金は、前記退職金と同時に、同じ方法で支給される。

四、年度手当。一九六九年十二月中に、「整理」解雇の通知を受けた従業員に対しても年末手当が支給された。この手当の計算方法は次のとおりである。

- a、基本時間給×基準週間就労時間数×4.33(週)×250%
- b、6月1日あるいは12月1日現在で、継続勤務期間6か月未満の従業員に対する支給率はそれぞれ次のとおりである。
- | | |
|--------------|--------|
| 継続在職期間 5か月以上 | 手当全額の% |
| 〃 4か月以上 | 手当全額の% |
| 〃 3か月以上 | 手当全額の% |
| 〃 2か月以上 | 手当全額の% |
| 〃 1か月以上 | 手当全額の% |

五、医療保険。医療保険の被保険者は、退職後も引き続き保険による治療を受けることができる。離職後二六五日以内に病気にかった者は継続一年間を限度として保険給付を受けることができる。この給付期間の延長は被保険者本人にだけ適用され、家族には適用されない。

六、厚生年金保険。米軍は、一九七〇年一月一日以降離職する（自己退職あるいは解雇による）すべての従業員が一月に厚生年金保険被保険者の資格を取得した旨、琉球政府社会保険事務局に報告する。

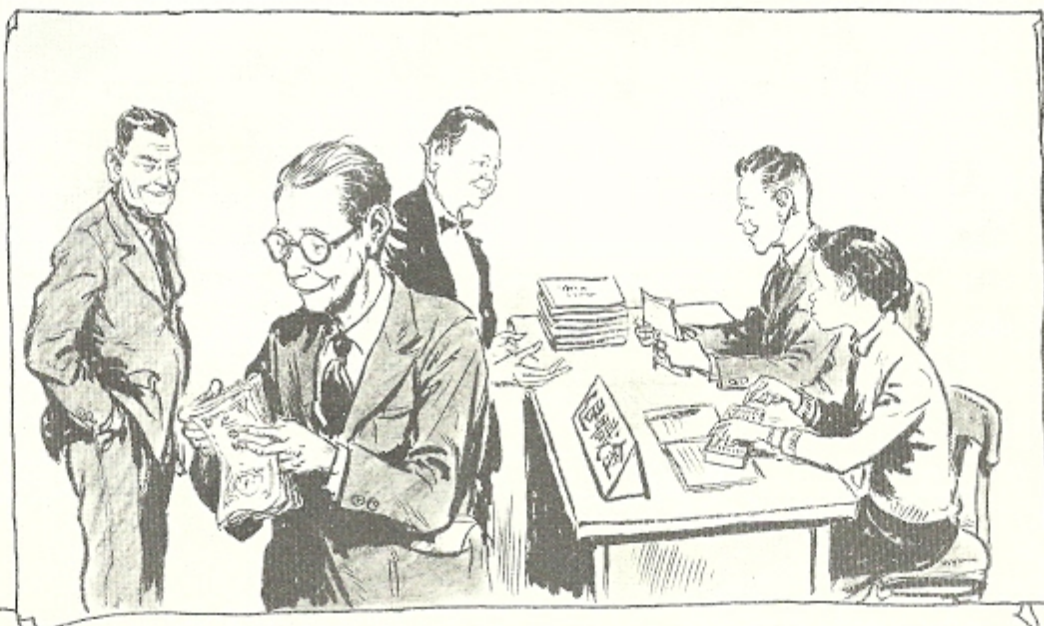
これによって、厚生年金保険制度による離職者の保険金受給資格が生ずる。一九七〇年一月に被保険者の資格を得た高年令従業員が退職した場合、合計被保険者期間わずか四年で老齢年金を受けることができる。米軍を離職後、民間企業に就職すれば、加入期間の継続ができる。

一九七〇年一月に被保険者でない者が老齢年金の受給資格を得るためには通常二十年間適用事業所で働かねばならない。

七、失業保険。一九六〇年以來、米軍はその従業員を失業保険に加入させている。この保険制度の留保資金には従業員の拠出する保険料と、雇用主としての米軍の負担金が充てられている。現在では離職するすべての従業員が給付対象になっている。保険給付を受けるには、各個人が公共職業安定所に登録しなければならない。

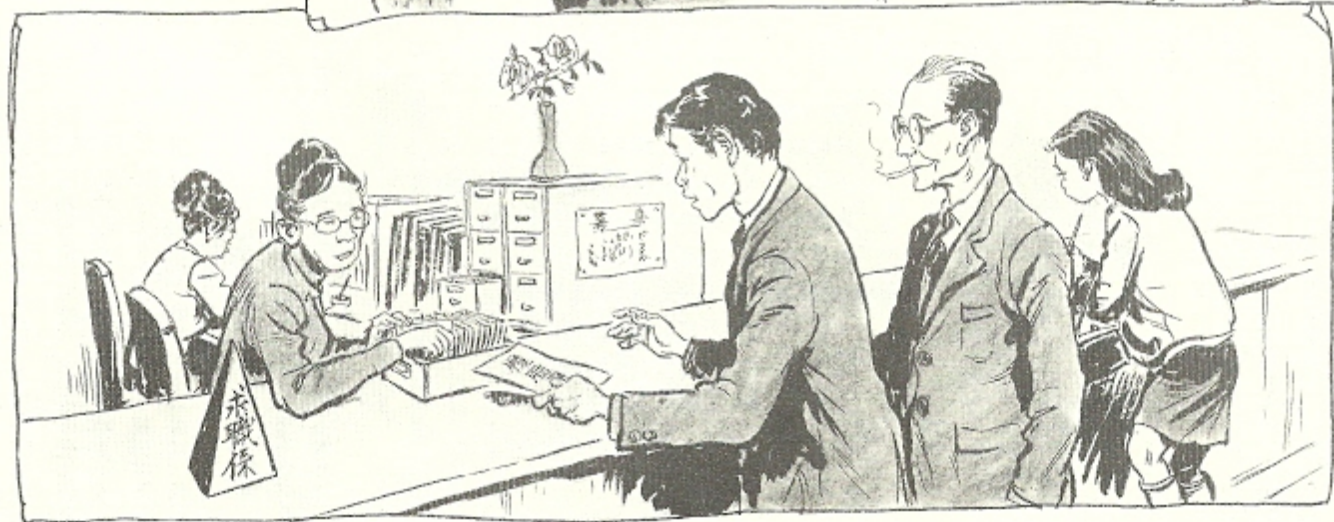
給付金は選当たり最高額二十二ドル五セントを限度として、本人の基準給月額額の六〇パーセントに当たる金額が毎週失業者に分割支給される。扶養家族がいる場合には別に手当てが支給される。受給者が六か月以上就労していた場合には、三か月間にわたって毎週この給付を受けうる。受給者の雇用期間が九か月以上の場合には、受給期間は六か月間になる。受給者の雇用期間が五年以上の場合には、受給期間は七か月間となり、雇用期間が十年以上の場合には九か月間にわたって保険給付を受けることができる。離職者にもよりの公共職業安定所に行つて受給申請をし、自分の受給資格についての詳細を知ることができる。給付を受けるためには、受給者は週一度公共職業安定所に出頭する必要がある。

八、一九六九年の布令一一三号に基づく恩典(米軍離職者に対する臨時措置)。この法律は在沖米軍従業員離職者に対する、職業紹介、再就職促進、職業訓練といった特別措置を講ずるためのものである。離職者は各自どんな恩典を受けられるかを知るため、もよりの公共職業安定所に行かねばならない。受けられる恩典の種類は次のとおりである。



八・一、職業訓練。離職者は必要に応じてまた希望によって、職業訓練を受けることができる。

八・二、就職指導・就職促進手当の支給。この手当は、失業保険の受給者が、受給期間終了後も、失業状態にあるときに給付される。公共職業安定所長の認定後、第一種および第二種の離職従業員に対して、指導が行なわれる。この該当者は一年以上雇用されていた者で、離職後三年間にわたって就職指導





を受ける権利を得る。就職指導を受ける者はその期間中、二ドル以内の日当を支給される。

八・三、技能習得手当金。離職者が新しい仕事につくため職業訓練を受ける場合は、受講中この手当が支給される。

八・四、移転費。一年以上、一極あるいは二種の職種に雇用されていた離職者が、公共職業安定所の

紹介によって、新しい職につくため移転する場合、規定により本人の交通費および転居に要する実費が支給される。移転費は失業保険法の規定に基づき、移転先までの距離に応じて決められる。

八・五、再就職奨励金。一年以上、第一種および第二種の職種にあった離職者で、公共職業安定所の紹介により新しく就職する者に支給される。

八・六、自主営業手当。一年以上、第一種あるいは第二種従業員として雇用されていた離職者が、二年以内に自主営業を始める場合に、公共職業安定所長の認定により支給される。この支給時期については職業安定所に問い合わせること。

八・七、雇用奨励金。一年以上第一種あるいは第二種の職種にあった離職者を、常用従業員として雇用した事業主に対して支給される。ただし雇用が公共職業安定所の紹介を通じて行なわれ、それが相当期間継続する場合に限る。事業主は、一年間に限って給与の一部に充てる補償金として、三十五才以上四十才未満の者に対しては月額十九ドル四十セント、四十才以上五十才未満の場合は二十二ドル二十セント、五十才以上の場合には二十五ドルの支給を受ける。

八・八、特別手当。この手当は、六か月以上在職し、人員削減のため自己の意志によらず解雇された者および、米軍に在職中死亡した従業員の遺族に対し、一定の条件の下に支給される。支給額は、在職期間に応じて最低五十五ドル五十セントから、最高七百五十ドルまでとする。ただしこの手当は、他の社会保険制度による同種の手当が支給される場合には除外される。この手当は、失業保険受給資格を失った離職者に対する給付を目的としたものである。各場合の詳細については、公共職業安定所が説明を行なう。

八・九、事業資金援助。第一種、第二種および第四種の職種に該当する離職者が、新たに事業の経営を始める場合、政府は必要な事業資金の融資獲得に協力する。

発足した

検察審査会制度

那覇検察審査会事務局総務課長

石崎 清 馨



新しい制度について説明する那覇検察審査会事務局長平田徳夫氏。

昨

年の九月から検察審査会法という新しい法律が施行されております。これに基づいてすでに沖縄群島では那覇に、宮古群島では平良に、八重山群島では石垣に、それぞれ検察審査会事務局が設けられ、活動が開始されていきます。

ところで、一般住民も検察審査員に選ばれることがありますので、この制度をわかりやすく皆さんにお知らせしましょう。

検察審査会とは

戦後は、米軍の施政権下に置かれたながらもいろいろと新しい民主的な制度が沖縄にも取り入れられました。検察審査会制度もこの新しい制度の一つで、検察事務に対して民意を反映させようという民主的なねらいから誕生したものです。一口にいって検察官の仕事について、いわば住民が監視の目を向ける制度が検察審査会制度だといえることができます。

本土では昭和二十三年（一九四八年）以来既に二十二年もこの制度が実施されており、この検察事

務の民主化は、検察官による不起訴処分に対して開かれた窓として犯罪の被害者などから喜ばれています。

検察審査員にはだれが選ばれるか

端的にいいますと、検察審査員には選挙権を有するものであれば、だれでも選べれます。というのは、検察審査員は立法院議員の選挙権を有するものの中からクジで選ばれることになっているからです。

住民の代表者がクジで選ばれるという制度は、一般の選挙とはまるで趣を異にするものであり、この意味からも、検察審査員制度は画期的なものだといえるでしょう。

検察審査員の任期は六月月となっており、十一人の審査員で構成されることになっています。

審査員になれる人も

審査員にはだれでもなれるといっても、目や耳の不自由な人とか、罪を犯して一年を越える重い刑に処せられたような人は審査員になれることになっていません。また、ここで注目すべきことは、裁判官や検察官、弁護士といった法律の専門家、その他特定の官職



審査会の会議中写真の撮影は禁止されているので、石崎清馨氏が議長席について模倣会議を開いている。

にある人々は審査員の職につくことはできません。これ以外の有権者で健康で普通の常識があるものならば、だれでもよいということなのです。したがって審査会は、農家の人や店員、会社員、大学生、会社重役など、各界各層の人たちで構成されるわけです。

法律に縁遠いと思われる人たちが集まって、はたして法律の専門家である検察官の仕事を十分に監視できるかどうかと疑う方がいるかと思いますが、決してそのような御心配には及ばないことになっています。

というのは、検察審査会で必要なのは、法律のくろうとの判断ではなく、

しろうとの正義感であり、また市民的な感覚で事件を判断していただくことになっていくからです。事件審査の際に必要なとされる程度の法律知識は、検察審査会事務局の職員に助言を求めめることもできますし、さらには、その他の法律専門家などから事件審査の判断をするための説明も受けることができますようになっています。

検察審査会の仕事

裁判所のしくみとして、裁判所は刑事事件については、検察官（俗に検事という）から事件を起訴してこなければ裁判を行なうことはできません。ですから、他人の物を盗んだ犯人、人の物をだまし取った者、人に傷を負わせた者などに対する場合でも、その本人を起訴（犯人を罰してくれと裁判所に請求すること）するかどうかの判断は検察官だけに任されているため、有罪になる証拠が十分備わっていても、その者を処罰する必要があると判断すれば、被疑者を起訴しないことができることになっています。

もっとも、起訴しても有罪にするだけの証拠のない場合は、当然不起訴処分になるわけですが、検察官もやはり人間である以上たくさんの事件を、取り扱う中には、調べが足りなかった判断を誤ったりして起訴すべき事件を不起訴処分にするのが絶対にはいえないままです。このように起訴するだけの証拠が十分あると考えられるにもかかわらず、検察官が不起訴処分にした場合、何らかの処置がとられるべきです。これを改めさせるようにするのが検察審査会のおもな仕事です。

審査の申し立てをするには

犯罪を告訴、告発した人や、犯罪に

よって被害を受けた人など事件に直接関係のある人で、検察官の不起訴処分に不服の人は、だれでも審査の申し立てをすることが出来ます。費用は一切ありませんので、どうぞもよりの検察審査会に御相談ください。

制度の理解と認識を

検察審査会ができてから、満七か月を経過いたしました。発足したばかりの新しい制度でもありますが、一般住民の中にはまだ検察審査会ということばさえ聞いたことがない人もかなりおられるのではないのでしょうか。しかし、前にも述べたように、あなたも検察審査員に選ばれることがあるのですから、すべての住民がこの制度に対する理解と認識とを深めていただきたいものです。

なお、検察審査会の仕事や審査の申し立て等については、もっと詳しくお知りになりたい方は、それぞれお住まいの地域の検察審査会事務局にお問い合わせください。喜んでお話しに応じますのでいただきます。

検察審査会の所在地

沖繩本島 那覇検察審査会

那覇市楚辺三七七番地

那覇地方裁判所内

(電)〇八五—〇二五三

宮古群島 平良検察審査会

平良市西里三四五番地

那覇地裁平良支部構内

(電)宮古—三四二八

八重山群島 石垣検察審査会

石垣市登野城五五番地

那覇地裁石垣支部構内

(電)八重山—三八一三



学園に咲く

芸術の花

専属の美術館や博物館がある米国の大学の一つに、テキサス州ダラスの南部メソジスト大学がある。一九六五年に開設されたメドリス美術館には、二十世紀ラテンアメリカの作品を含めて、優秀なスペインの絵画のコレクションがある。写真はムリロの作品。受胎告知。の前で来館者の前に立つ客員講師のホセ・ロベス・レイ博士。



現代のアメリカ文化復興の中で最も注目すべきことの一つは、大学が果たす役割がますますその重要性を加えてきている、ということである。

これは、伝統的に受け継がれてきた大学の活動範囲の飛躍的な拡大を象徴する、興味深く、また意味深い現象である。大学は、ただ単に広範な一般的な人文科学教育の一部門として、学生たちの芸術鑑賞力を養うことに満足しているばかりでなく、そのほかにも多くの任務を引き受けているが、その中で特に活き活きしていることは、地域社会の文化の中心としての役割を果たしているということである。

英国の詩人であり、ジャーナリストでもあるステイブン・スペンダーは世界の大学の現状についての最近の報告書「青年反抗の年」の中でこの点に触れ、大都市（デトロイト）に近いということから、アンアーバーのミシガン大学で仕事を見つけた友人を評して「幸運な男だ」と述べている。

その友人は「アンアーバーがデトロイトに行くのではなく、デトロイトがアンアーバーに来るのだ。」と詩人に答えているのである。友人はさらに、デトロイトの人々を大学に引きつけている音楽会、演劇、学校祭、講演、ゼミナール、その他の文化活動の豊富さについて詩人に語ったのである。

こういった面ではミシガン大学のよう大きな大学が先頭に立っているが、小さなカレッジでも、地域社会全体のための教育活動の一環として文化活動を行なっている。こういった大学

の姿勢が一般化していることは、ロックフェラー財団が、一九六三年から一九六八年までの間に米国美術学校に供与した援助資金の成果を検討し、大学は「十八世紀ヨーロッパの貴族によって行なわれたと同様の役割を果たしている。」と明言していることからでもうかがえる。また財団はこれに関連して、現在職業的な音楽会の入場券発売総数の七十パーセント以上が、大学で取り扱われていると指摘している。

学生や地域社会に対する大学の文化的な責任感が大きくなっていくことは、無料で、またあるときは安い入場料（大学は文化活動を営利の対象としないのが普通）で、いろいろな文化的あるいは人気のあるプログラムの公演を行なっていることに反映している。

現在国内で行なわれている公演をちょっと見渡しただけでも、それらがいかに幅の広いものであるかがわかる。

あげてみれば、スペインのギター演奏家、ホセ・デ・ロス・レエス（中西部のポールドイン・ウオレス・カレッジにおける無報酬演奏指導）、ニューヨーク・プロ・ミュージカル合奏団（セントルイスのワシントン大学）、エリオ・ボミア舞踊団（コロラド州デンバーのテンブル・プエル大学）、バーンスタインやウェイルの短い曲目を歌うソプラノのマーニー・ニクソン（カリフォルニア工科大学）、ベルリン・フィルハーモニー八重奏団（ニューヨーク大学）、ニグロ・アンサンブル・カンパニー（コネチカット州ニューヘブンのエール大学劇場で国内巡回公演）などがある。

学生や、一般大衆のため一流の音楽家たちや楽団を招いて行なう大学主催のコンサートシリーズはまた、プロとして踏みだしたばかりの若い音楽家たちの公演の場ともなっている。アフイリエート・アーティストという団体は、カレッジ、大学、芸術センター、地域芸術行事などに専門家を招いて、十日ないし二週間の公演を行なうという、ちょっと変わった方法を探っている。この期間には実地指導をすることもあるが、本来の目的は、学生ばかりでなく、一般団体のためにも演奏し、一個人として芸術家に触れさせ、芸術に対する聴衆の関心を深めさせることである。

たいていの大学は、外部からの芸能人を連れてこなくても、教授や学生たちの積極的な参加によって文化の中心としての地位を保つことができよう。どの学校においても合唱団、合奏団、バンド、室内合奏団、交響楽団、ジャズバンド、舞踊団や演劇部——これらの一部あるいはすべて——が活発に活動していて、学生たちばかりでなく、一般の人たちのためにも公演されている。

多くの大学で、伝統的な学校公演の域を越えた、劇場進出を試み、大衆に近づくため真剣に取り組んでいる。その最も野心的な試みの一つは、モンタナ・レバートリー劇場であろう。この劇場はモンタナ大学の教授や学生たちによって組織され演出家が述べているように、「生の劇場公演に対する北西部の人々の増大する要求と関心とを満す」ことを目的として、学内での公

演だけでなく、巡回公演にも力を入れている。

美術の分野においても、アメリカの大学はしだいに、大衆の鑑賞力を養いうるだけの強力な文化的影響力を持つに至ったことを示しはじめている。多くの学校は、図書館、音楽センターでの小規模の美術品展示から出発して、大学専属のりっぱな陳列室や美術館に収集品を収めるまでになってきた。この中でも、ハーバード大学のフォック博物館やエール大学の美術館などは、一流の公立博物館と肩を並べるほどである。

規模の小さなカレッジなどで、常時展示されているものは美術部所有のありふれたものにすぎない場合が多いが、陳列館や美術館から借りてきて、陳列品をしばしば変えている。教職員が学内の展示会に加わるのは当然のことであるが、最近リッチモンドで開かれた好評を博したグループ展に参加した、バージニア州立大学の教授十二人のように、正規の展示場に作品を出品するものもたくさんいる。

大学はほかにも、地域社会にいろいろな形で関連を持っている。最近の例をあげると、ロサンゼルスのカリフォルニア州立カレッジが行なった、中高校生に対する一連の現代ダンスに関する指導と講義、ルイスビル大学のベルクナップ劇場とルイスビルの専門俳優劇場とが学生と一般大衆のために行なった、比較劇研究会、ウイスコンシン大学で開かれた、全国的な意義を持つ青年音楽研究会（米国教育庁共催）などがあり、この研究会では、音楽教育

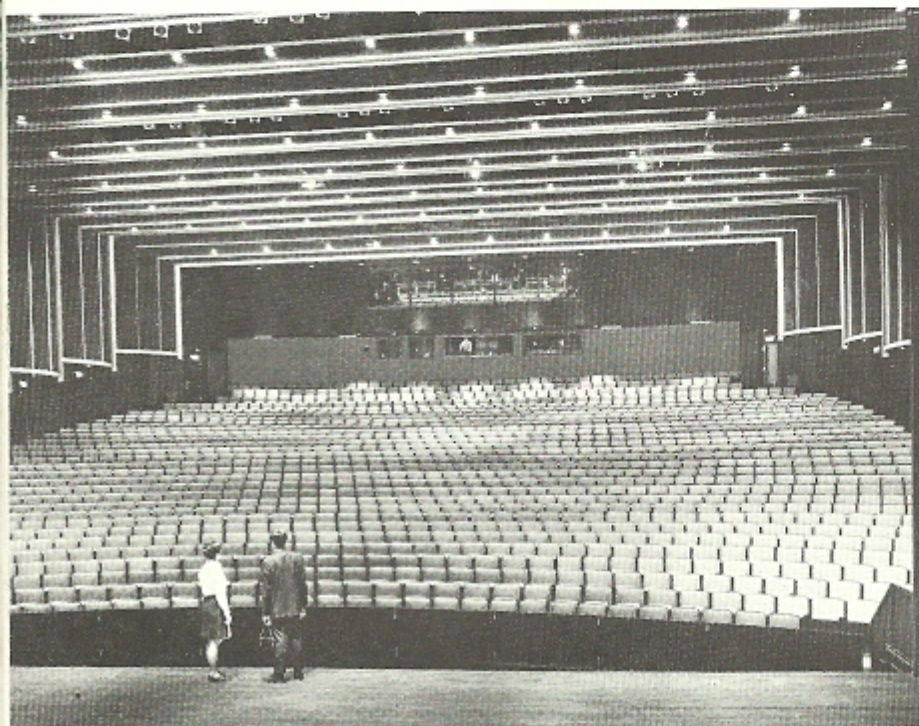
者たちは教科課程にロック音楽を取り入れる必要を討議した。

学生に対すると同じように、地域社会に対していただいているアメリカの大学の大きな責任感が、最も進んだ研究施設を備えたりりっぱな文化センターという形で開花している例が多い。

これらのセンターは、たとえばブランドン大学、アイオワ州立大学、イリノイ大学のような大きな大学ばかりでなく、一見して文化の中枢とも思えぬような学校にもみられる。

長い間、貧困の大きな吹きだまりと見られていた南東部山岳地方にあるウ

ェスト・バージニア大学創造芸術センターの見どころは、1500人収容のコンサートホール。ここは、電子装置で音響調節ができるように壁と天井に金色の金網が張ってあり、劇、オペラ、コーラス、オーケストラの演奏その他の催し物に音響効果万点というすばらしいホールである。



ェスト・バージニア大学の創造芸術センターなどは、思いもかけなかったもののうちでも、最たるものである。その千五百人収容のすばらしいコンサート・ホール、リハール・ホール、工作室、美術デザイン室、電子ピアノ実験室、その他の近代的施設（資金ができれば増設されることになっている製陶・彫刻室、オペラ、演劇実験劇場などをあげるまでもなく）を持つこの大学こそ、地域社会の文化の高揚に指導的役割を果たすため、多くの困難を乗り越えてきた好例の例であろう。▲

生け花 春



生け花インターナショナル沖縄支部会長、
メアリー・マイヤーズ夫人。

生

け花インターナショナル沖縄支部の会員による生け花シリーズの一つです。春、という題で、一九六九年六月以来生け花インターナショナル沖縄支部の会長を勤めているメアリー・マイヤーズ夫人が生けたものです。

マイヤーズ夫人は、東京の草月会で免許を受けた師範で、常任参与の資格を持っています。夫人はまた、米国のガーデンクラブ全国会議の公認生け花講師であり、一九五八年以来、生け花展の公認審査員を勤めています。マイヤーズ夫人は、一九六八年六月来沖しましたが、それまではドイツのフランクフルトに在住、その間FLAARE (Flower Arrangement In Europe ヨーロッパ生け花協会)の会長を勤めていました。

マイヤーズ夫人は、自分の作品「春」について次のように説明しています。

「春は喜びの季節です。落葉樹や低木が芽をふくときであり、多くの木々の花が咲き乱れるときです。自然が一年じゅうで最も美しい衣をまとうときであり、鳥は美しい声でさえずり、人間は感謝の念をもって人類に自然を与えてくれた造物主をたたえるときです。

この季節の喜びにふさわしく、私はこの生け花の取り合わせとして中心に赤いチューリップを選びました。チューリップは、小アジアが原産地で、オランダの園花となっていますが、日本を含む世界各地で盛んに栽培されています。

沖縄の私の家の庭を歩いていますと、色彩豊かな野生のアジサイが見つかりました。その若芽が赤いチューリップによく調和するのです。

チューリップを左手前に生け、風になびく趣を見せるため前方にかしげ、二本の枝でチューリップを囲んでその美しさを強調させるため、チューリップの両側に空間を設けました。

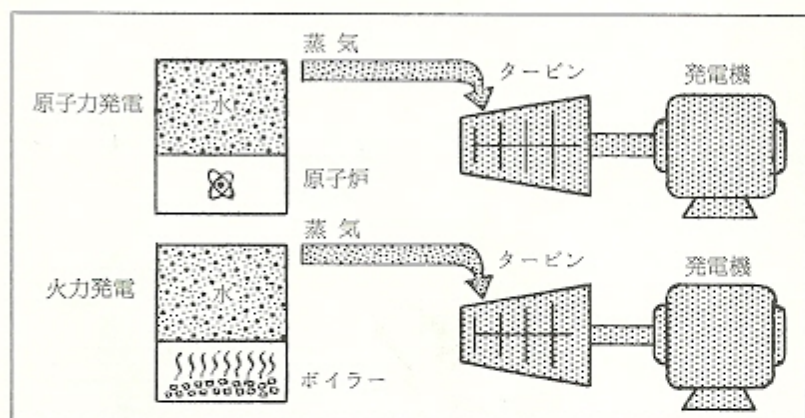
生け花インターナショナル沖縄支部では、地元の人々も外国人も自然が与えてくれる富を分けあい、仲よく活動しています。」



日本の産業に

超近代的原子炉

原子力発電と火力発電のしくみ

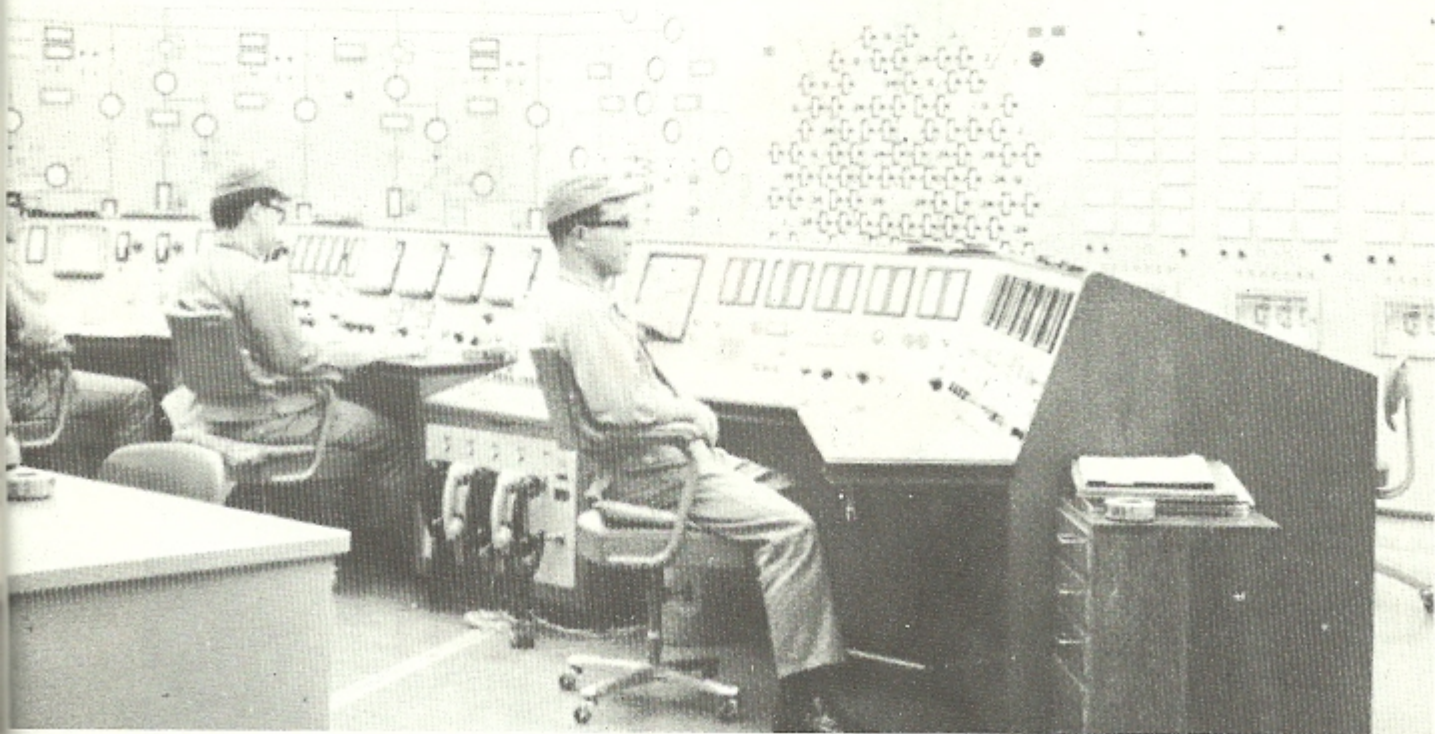


最近、大阪に本社のある伊藤忠商事とアメリカのガルフ・ゼネラル・アトミック社との間に、代理店契約が成立したが、これは日本の原子力平和利用が進み第二段階にはいる前ぶれである。

この契約によって、伊藤忠は平和利用のために米国で開発された新型の高温ガス冷却原子炉を日本に輸入する権利を得た。

高温ガス冷却炉は、現在日本で原子力発電に使用されている軽水型原子炉とは、構造および性能に大きな相違がある。

茨城県東海村の日本原子力発電会社第一工場で作動状態を調べる技師たち



日本の原子力発電所では、摂氏三百五十度くらいまで温度が上がる沸騰水型原子炉と加圧水型原子炉を使っている。

西ドイツのAVR電力会社で使用中の高温ガス冷却炉は冷却用にヘリウムガスを用い、八百五十度の熱を出す。

ガルフ・ゼネラル・アトミック社の実験炉では、すでに千三百五十度の熱力を出している。この新しい原子炉のおもな特色は次のような点である。

一、放射性トリウムを燃料に使用。

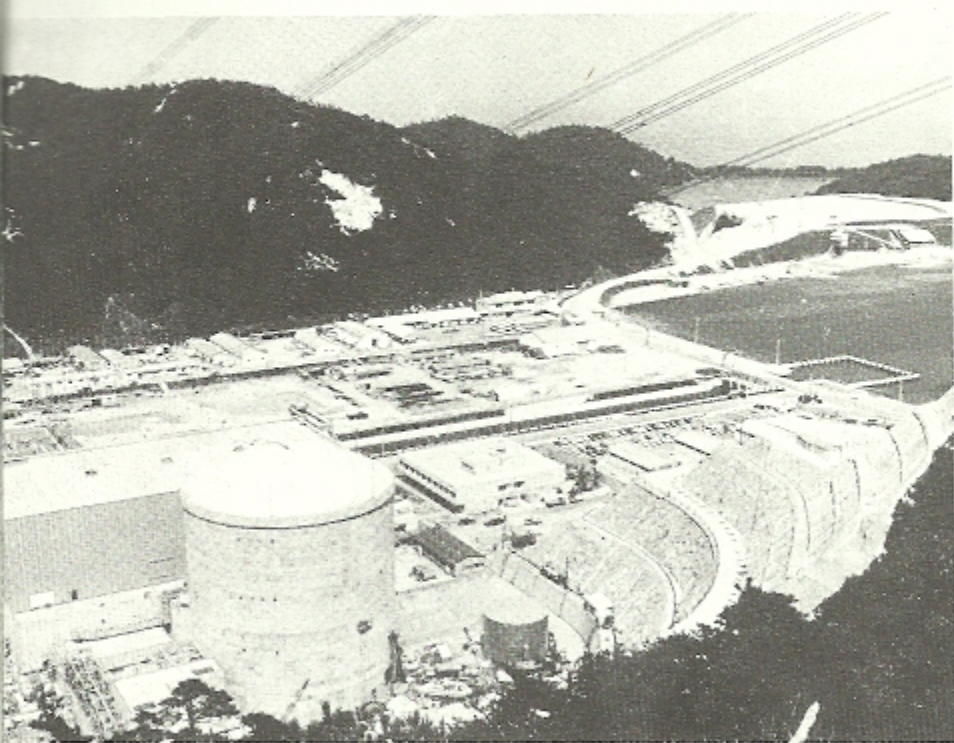
二、安全性が高い。

三、放熱による公害がほとんどない。

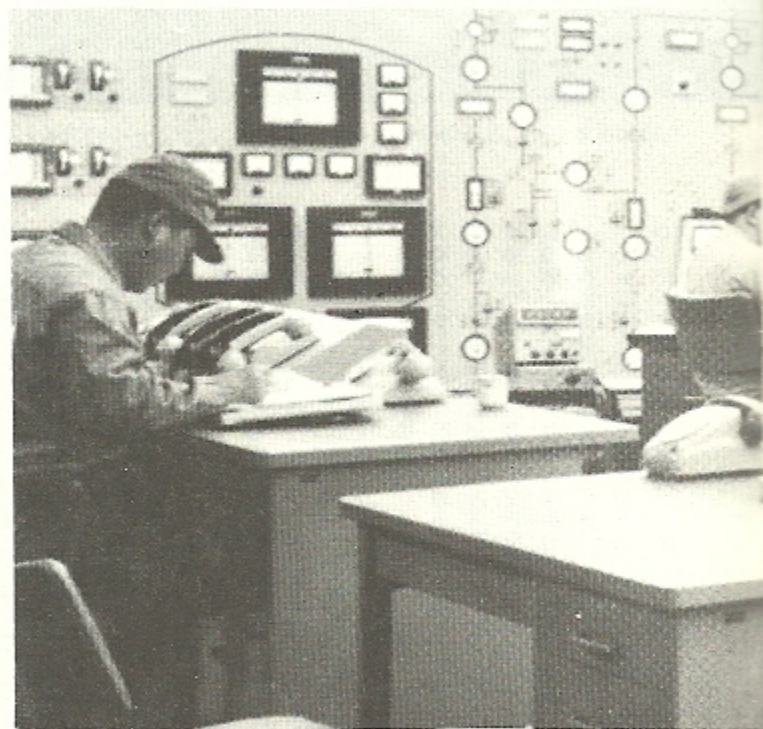
四、動力生産費が安い。

五、原子炉を発電以外の目的に使用できる。

高温ガス冷却炉は非常に高熱を作り出すので、化学工場、発電所、脱塩および脱硫施設、地域暖房施設、および粘結炭を使わない製鋼所などのある、原子力コンビナートのセンターとしての役割を果たすことになろう。



エキスポ'70の電力供給の一端をになう福井県の日本原子力発電研究発電所。原子炉は昨年11月すでに運転を開始している。



新しい原子炉は、新日本製鉄が、日本海に面した新潟に建設中の新しい製鉄所ではじめて実用化されるはずである。この会社は、八幡製鉄と富士製鉄の合併によって、一九七〇年三月三十一日に新しく発足したものである。新会社は実験炉の結果がうまくいけば、一九七〇年代の後半には新型原子炉による製鉄を始めることができるものと期待している。製鉄会社はより効果的な製鉄方法を開発することのみでなく、製鉄所一帯の大気汚染を少なくすることに興味を持っている。

日本の化学工場や電力会社の中には、大気中の一酸化炭素過剰化の問題に取り組みなければならなくなったため、重油から高温ガス炉に転換を考慮中のところもある。

将来における他の方面での原子炉利用について研究を開始する目的をもって、日本原子力産業会議の中に、原子炉の多目的使用審議会が設立されている。

伊藤忠商事によれば、原子炉一式の輸入が必要と考え、ガルフ・ゼネラル・アトミック社との代理店契約に調印したということである。日本の通産省は、このような原子炉を日本で開発するには、少なくとも十年はかかるだろうと推定していた。

ガルフ・ゼネラル・アトミック社の資本は、最近、沖縄本島に近い平安座に石油中継所と製油所を建設中のガルフ石油会社からの全額出資によってまかなわれたものである。



先島の畜産業者 ハワイを訪問

宮国 清一郎

今 般、米民政府の援助で、宮古・八重山の畜産業者を代表し、パナリ牧場の上江州安幸氏、砂川牧場の砂川恵福氏、丸八乳業の宮原徹氏とわたしの四名が、ハワイの畜産経営技術研究のため同地に派遣されたので、その概要を報告する。

日ごろ生活のワクの中に閉じ込められ、その中でしかもの事を考えなかつたわたしにとって、こんどの旅は、まのあたり外界の姿に接し、アメリカの農、産業や文化について学ぶ、生まれてはじめての絶好のチャンスであった。この機会を与えてくれた米民政府に心から感謝申し上げるしだいである。

一行四名を乗せたトランス・ワールド航空のジェット機二一〇号は、十一月三十日十九時三十分、常夏の島ハワイへ向けて嘉手納飛行場を飛び立った。離陸後八時間半、機はハワイ時間の十一月三十日午前九時、オアフ島ホノルル国際空港に着陸した。

東西文化センターに滞在

空港でジョンソン氏の出迎えを受け、ハワイ大学構内にある東西文化センターに案内された。簡単なオリエンテーションの後、割り当てられたへやで旅装を解くことになったが、同室の客がアメリカ人であることを知って、驚いてしまった。

英会話もろくにできないわたしは、同行の仲間といっしょにしてくれと頼んだものかと迷っている



ダイヤモンドヘッドに向かってうねうねと延びるホノルルの有名なワイキキの浜。

と、そのアメリカ人から「今日は、どちらから？」と逆な日本語であいさつされすっきり安心した。自己紹介して話合ってみると、そのアメリカ人は日本にも留学して日米史を専攻した人であることがわかった。彼の説明によると、東西センターの習慣として、この寮では国際親善のため外国人と同室させることになっているとのことである。「同室というめぐり合わせになったのも神のみ心によるものだから、この機会にできるだけ仲良くしようではないか」と、そのアメリカ人から手を差しのべられて握手をかわした。

コーディビルという名のアメリカ人といっしょ

ホノルルに数多い豪華なホテルの一つ、バゴダホテル。



に住んで一週間、進んで案内を引き受けてくれた彼のおかげで、わたしは、一般観光客の行くホノルルの名所のほか、あまり知られていない興味のある場所まで見ることができた。いっしょに暮らした期間は短かったけれども、この親切なアメリカ人のことは一生忘れないことだろう。彼の友情に心から感謝したしだいである。

美しいホノルル

ハワイの第一印象といえば、州都ホノルルのすばらしい景観に驚嘆した、というひと言に尽きる。ハワイを象徴する火山、ダイヤモンドヘッドをはじめ、ワイキキの浜、高い山々を背にした町の風景、整然とした街路や公園や緑の広場などにある美しい並み木や樹木などは、一生の思い出となるであろう。広大な住宅や官庁の建物など、昔話の童宮城を思わせるほどみごとなものである。

町かどに立ってびっくりしたことは、道行く人のほだ色や服装のあまりにも種類の多いことである。皮膚の色といえば、まっ白からまっ黒まで、そして多くの東洋人を含めて千差万別である。洋の東西を問わず、世界じゅうのあらゆる人種が仲よく住んでいるのがハワイである。あえていえば、日本人と一口にいえるような一色のアメリカ人というものは存在しないのだ。小さな島育ちで、大海を見たことのない井の中のカワズのようなわたしは、ハワイの人種の多様さに、全くびっくりしたしだいである。人口わずか八十万のハワイの経済収入が沖縄全部の六倍もあると聞いて、わたしはびっくりした。その内訳をあげれば、次のとおりである。

基地収入	六億五千万ドル
観光産業	五億ドル
砂糖	二億二千万ドル
パイナップル	一億二千万ドル
畜産	二億一千万ドル
計	一七億ドル(年間)

大きな観光産業

一年を通じての快適な気候、美しい自然と豊かな史跡、変化に富んだ文化的、娯乐的な催し物そして人情味豊かな住民に恵まれたハワイは観光客のメッカとなっている。ハワイにはあらゆる人種が住んでおり、自国語を話す人がすぐ見つかるので、観光客はまんざら他人の国へ来たような気がしない。同じ外国旅行をするならハワイにしようといわれるのももっともなことである。

それから、州政府をはじめ、一般人の観光に対する力の入れ方もまた格別である。州政府には観光局が設けられ、局長には大学の総長クラスの人が配置されているとのことである。それと別個に強力な観光協会があり、これは州政府から年間百万ドル、地元の人や個人の寄付五十万ドルでまかなわれているという。これら観光局と観光協会とが協力して宣伝や指導にあたり、観光事業の促進に努めている。

ハワイの住民の公徳心に富んでいることは驚くほどである。たとえば、道路や公園などで物を捨てることは許されない。この規則は、老人や子供にいたるまで、しっかりと守られている。旅行者がたばこの吸い殻を捨てようものなら、居あわせた地元の人々が、その吸い殻を拾って、市内いたる所にあるくず入れに入れ、捨てた人に警告するといったぐあいである。市民は自分の庭木を切るにも地元の役人に相談するというほどである。住民たちがどのようにしてこれほど高い公徳心を育ててきたのか、わたしには不思議なくらいである。

毎週金曜日の午後には、住民はひとり残らず男はアロハシャツ、女はムームーを着用するなど、島をあげて観光ムードを盛りあげている、一点非の打ちどころのない観光地ハワイである。こうした努力のいかいあって、一九六九年度には百五十万人の観光客を呼んでおり、この数は毎年ふえ続けている。これら観光客の落とす金額は年間五億ドルに達し、ハワイの総収入の約三割を占めている。

ハワイと比較して、沖縄の観光事業の開発はどう



ハワイ大学の中にある東西センターではいろいろな人種からなる学者や学生が勉強している。このセンターは文化や技術の国際交流を目的とするこの種のものとしては唯一の国立施設。

であろう。美しい自然と物産が安いということだけで、観光客が押しかけるものではない。沖縄の人々は公徳心に欠けてはいないだろうか。他国の人々に対し排他的ではないだろうか。外国資本を歓迎して沖縄の経済開発を助長させるだけの雅量があるだろうか。ハワイの観光事業をここまで発展させた原動力の一つは、アメリカ本土の大会社による施設である。以上の点を是正しないかぎり、沖縄の観光事業の発展は望めない、と思うがどうであろう。

ハワイの砂糖産業

ハワイの大きな製糖会社では、百管農務を持ち、自家生産のキビで製糖している。ある工場長の話によると、製造工程での合理化はこの国もあまり変わりがない。利益をあげるかどうかは、その農務の収獲で決まる、ということである。

ハワイではかんがい施設が完備しており、間断なくかん水されている。肥料は、定期的に土壌分析して、必要と思われる化学肥料を測定したうえで与えている。ときにはヘリコプターを使うこともあり、ハワイのキビ栽培の合理化は大したものである。

ハワイのキビの生産高は、砂糖にして年間約百二十四万トン、金額にして約二億二千万ドル、沖縄全部の六倍以上にあたる。近代的な機械をフルに使い、五千人足らずの従業員で、これだけの生産をしているというから、驚くほかない。もう一つ興味を感じたことは、製糖会社による副産物の開発である。以前は、キビの梢頭部は切り取って焼き捨てていたが、最近では加工してシュガーケーン・トップキューブという家畜の飼料を製造している。この製造を始めて三年間、製糖会社では多少の赤字を出しながらも、飼料はハワイの畜産業に重要であるとの理由から、生産を打ち切らなかつたのである。これを見ても、ハワイの多くの人々が、個人の利益ばかりを考えず、いかに社会全体のことを考えているかがわかるのである。

重要なパイナップル産業

ハワイでは、パイナップルが発達し、年間一億二千万ドルのパイナップルを生産している。これは全世界のパイナップル生産量の五十五パーセントに当たる。

ハワイの全生産量の四十七パーセントを生産加工しているドル社の経営状況を紹介しよう。

この会社は一万二千四百十ヘクタールの耕地面積を持ち、年間四十三万トンのパイナップルを製品化している。

ドル社の経営は非常に効率的で、生産を高めるため機械をフルに活用している。たとえば、沖縄では収穫したあとの葉や幹や根はそのまま畑ですき込まれているが、ドル社ではパイナップルの木全部が利用されている。葉は機械で刈り取ってサイロにたくわえ、家畜の飼料にする。このパイナップルの葉の飼料はトン当たり八ドルで販売し、年間売り上げは三十五万ドルに上っている。

ドル社ではパイナップルの根も利用している。根はローラーで圧搾して、出た甘い汁から砂糖を作っている。残ったカスはパイナップル・ブランとして加工され、家畜の飼料になる。

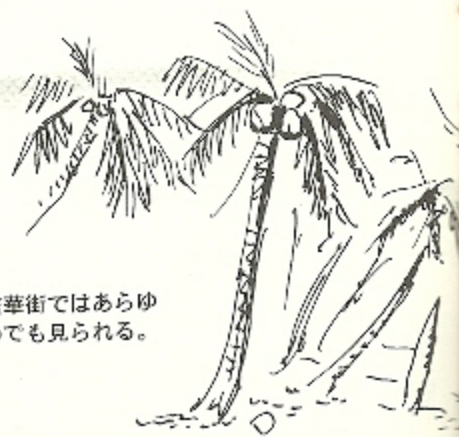
パイナップルの葉の加工はオートメタ化されており、そのほとんどがカン詰めにされて世界じゅうに売り出されている。実のシンや皮はローラーで圧搾し、汁液は砂糖に、残ったカスは粉にし、家畜の飼料としてトン当たり四十八ドルで販売している。

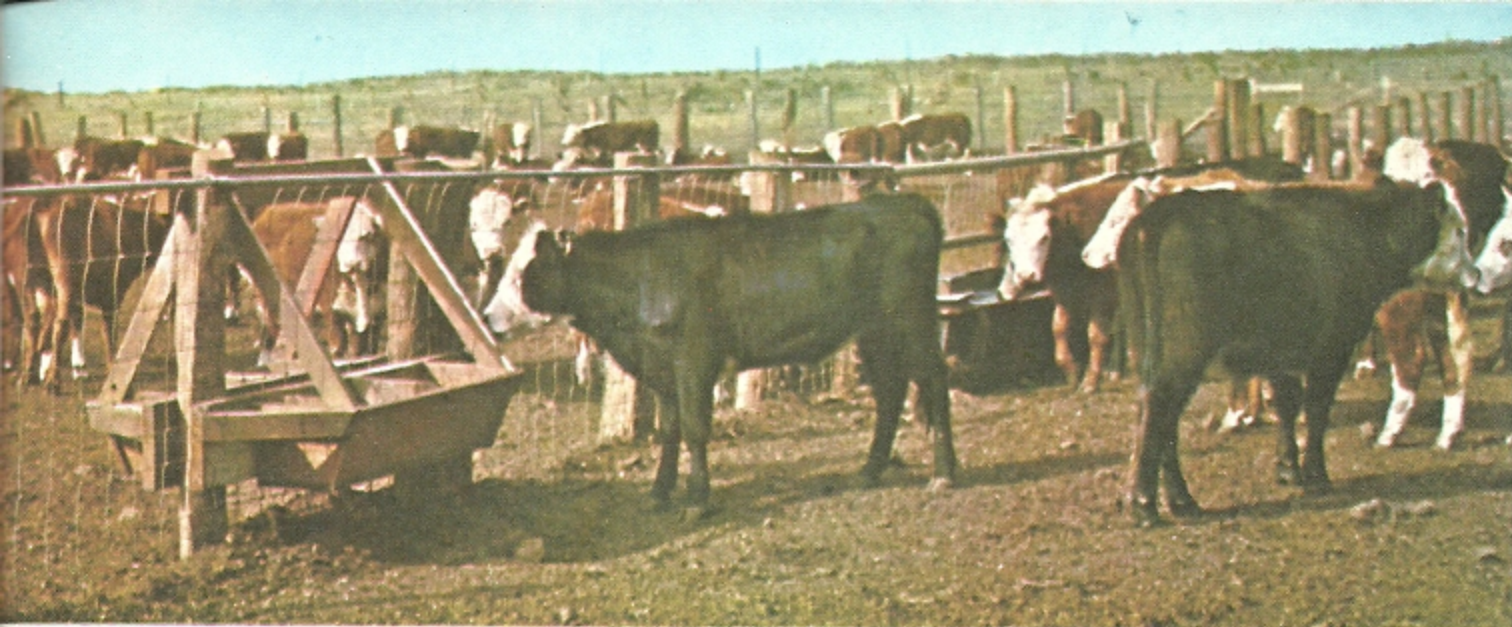
沖縄では捨てているパイナップルの残り物で作った副産物から、ドル社では年間百万ドルの収入をあげている。これほどの生産量を誇るドル社の従業員が社長以下三千九百名に過ぎないと聞いて驚いた。その一人当たり生産量の高いことは信じがたいほどだ。

人口五十万を擁するホノルルの市中では、ホテルやレストランはどこにでもあがるが、商店は狭すのにはねがわれるほどである。あとで知ったことであるが、悪い物はほとんど十か所のショッピングセンタ



ホノルルの繁華街ではあらゆる人種がいつでも見られる。





ハワイのカムエレにあるパーカー牧場の肉牛。頭の白い前方の2頭はブラックアンガス種とヘレフォード種との交配種。

1でしているとのことである。そのうちのいくつかは町はずれにある。

わたしは世界最大のひとつといわれているアラモアナ・ショッピングセンターを訪れてみた。店の周囲には一万台の自動車を収容できる駐車場があって、中では衣料品、食料、家庭用品何でも売っている。ホノルルでは、沖繩のどこへ行ってもあるような商店など見当たらない。

ハワイの畜産業

牧畜がハワイの重要産業となっていることを示すため、まず保有頭数をあげてみよう。肉用牛百五十万頭、乳用牛十六万頭、豚百万頭、鶏四百二十万羽、ブロイラー三百四十万羽がこれである。

わたしたちのおもな研修目的である肉用牛の飼育について述べてみよう。

ハワイでは、繁殖と肥育とは別個に行なわれ、繁殖は牧場で、肥育はフィードロット内で行なわれている。

ハワイには牧場もたくさんあるが、特に、有名なパーカーランチでは常時二万五千頭の肉牛を飼育している。

これらの牧場は実に手入れがゆきとどいていて、雑草を見つけないに苦労するほどである。

種付けは、草の最盛期に子牛が生まれるように行なわれている。

生まれた子牛は十二か月間牧場で育成後、フィードロットに送って肥育する。パーカーランチのフィードロットでは、一万二千頭の一年牛を管理するのにわずか十八名の従業員でやっている。これだけの牛をわずかこれだけの人数でみごとに管理しているとは、驚くべきことである。

フィードロットでは青草は与えず、シュガーケーン・タツブキやパイナップル・プランその他濃厚飼料で飼育している。このフィードロットでの肥育成績は、一日一頭当たり増体量が一・一キロというから驚くばかりである。

合理化の進んだハワイ

わたしは、ハワイの産業を視察して、ともすれば失望感に襲われる自分を見いだした。理由の一つは、沖繩ののろまさに比べて、ハワイの生産方式や時間の使い方がはるかにすぐれていることであつた。

いまだに工業化の段階に達していない沖繩から見れば、優秀なハワイの産業発展ぶりは目を見張るばかりである。ハワイの人たちの何をみるにもおう盛な意欲の根源はなんだろうか。われわれにそのまねができないものであろうか。そこでわたしは、沖繩から移住したわれわれの先輩たちが、ことばの不自由さを克服してりっぱに成功していることを思い出した。環境が変われば、われわれもこのようになるのだろうか。できる、沖繩にいてもやれるはずである。現在われわれがやっていることにむだがないだろうか。合理的、建設的であるだろうか。イデオロギー闘争にエネルギーを使いすぎではないだろうか、とわたしは自問自答した。

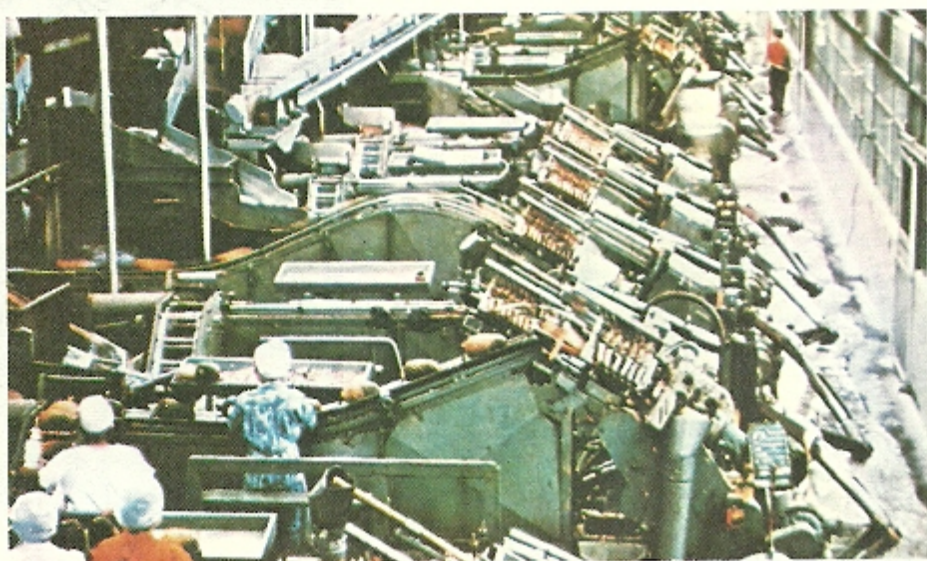
今回旅行する以前に、わたしは全沖繩、特に先島の将来について深く考えてみたことはなかった。現在生きているわれわれの成功、失敗が沖繩の将来にどれほど大きな影響を与えるかということが、今こそわたしにはわかってきた。こんどの旅をして、われわれのすべてが、五十年後の沖繩のため責任を果たすべきだということを痛切に感じた。

沖繩で第一番にしなければならぬことは、畜産業者を含めて全農業者が自我を捨て、生産性向上のため土地の交換分合を目ざして進むことである、とわたしは考える。また、眠っている地下水をくみ上げ、よく地化を図るべきでもある。他の産業に従事している人々もまた、利己心を捨て、あすの沖繩建設にベストをつくすべき時期ではないだろうか。

今回の旅で、あまりにも多くの目新しい事柄に追われ、専門の畜産研修さえおぼろぎのありさまで、順序だったスマートな旅行記ができなかったことをおわび申し上げる。



ドール社の新しい果実処理機で水洗いされながらカン詰め工場に送られるパイナップル。



パインの心と皮は複雑な機械でまたたく間に自動的に取り除かれる（ドール社パイイン工場）。



パインの目や傷を手早く切り取るドール・パイイン会社の従業員。



古琉球の芸術家 音楽家

仲泊良夫

(2)

湛水流の始祖幸地賢忠

琉球の古典歌曲に、はじめて本格的な作曲をしたのは、湛水流の始祖幸地賢忠(一六二二—一六八三)である。彼が作曲した歌曲のうち現代に残っているのは、作田節、早作田節、首里節、諸鈍節、揚作田節、ジャンナ節、曉節の七曲である。音楽家東儀鉄笛氏は、かつて東京音楽学校の邦楽調査会で湛水流の音楽演奏を聞き、

この曲はすこぶる古典的のもので、あたかも日本の雅楽を聞く感じがした。作田節はゆっくりした二拍子の歌曲であり、早作田節は日本の古代歌曲の形式に似ている。歌い方やメロディーなども非常に似ている点がある。また、その旋律法は日本の鎌倉時代(一一八五—一三三三)以前の歌曲である神楽に共通するものがある。(注1)

と述べ、また歴史家伊波普猷氏は、
私がかつて山内盛彬君の父盛熹(一八四二—一九一六)氏から伝授された湛水流の調べを聞いたとき、その素朴な田舎情調を味わって、まだリファインされなかつた元禄時代(一六八八—一七〇三)以前の調べはたぶんこんなものであつたらうと思つたことがあつた。(注2)

と述べている。幸地賢忠の湛水流は彼の門弟沢尻良沢(一六五三—一七〇二)に伝えられ、次に新里朝住(一六五一—一七一三)に受け継がれた。新里の門弟からはふたりの天才が現れた。ひとりには劇作家

1965年4月コザ市に建てられた琉球音楽湛水流の始祖幸地賢忠(1623—1683)の顕彰碑。



玉城朝薫(一六八四—一七三四)であり、もうひとりには聞賢流の始祖となつた照喜納名仙(一六八一—一七五三)である。

玉城朝薫のあと、長男の玉城朝喜(一七一四—一七六六)が湛水流を受け継いだ。ところが、朝喜はのちに奥平と改姓したため、湛水流は奥平家の家伝

ということになり、ここから「奥平風」という呼び名が起つた。

湛水流は一八〇五年まで、奥平家が家元となつていたが、その後は伊志嶺朝薫(一七六七—一八二五)に伝えられ、さらにそのあとを亀川盛倫が受け継いだ。このあたりになると、湛水流はあまりに古典型であつたため勢力を失ひ、亀川の跡を継いだ名護良保(一八〇八—不明)によってわずかに絶滅を免れているありさまであつた。ところが尚泰王(一八四三—一九〇一)は湛水流の絶滅を防ぎ、なんとか存続させたいと考え、名護を、一八六六年に挙行される冠船劇の音楽師匠に任命した。名護は三人の高弟松村真信(一八三二—一八九八)、喜舎場朝賢(一八四〇—一九二六)、山内盛熹と協力して首里崎山の王家別荘で湛水流の工工四(楽譜)を作つたといわれる。(注3)

幸地賢忠の生涯

幸地賢忠は一六二三年六月十五日(元和九年、尚豊三年)幸地親方朝盈の二男として首里に生まれた。賢忠は勝連城主アマワリを滅ぼした大城賢勇(俗に鬼大城と称す)から七代目の子孫に当たる。母は大里按司朝生の長女真満(一五九五—一六五八)である。

幸地家(夏姓)の家譜によると、賢忠は一六三五年(寛永十二年)十二才のとき小赤頭(官中の給仕)となり、一六三八年には勝連按司に随行して鹿兒島へ行った。それから三年後の一六四一年に、十八才で鎖子大屋(外交官)となり、薩摩と琉球の外交事務にたずさわった。さらに一六五三年(承応二年)具志川間切の総地頭職となり、同時に御物奉行吟味役(大蔵省顧問)という重要な職務に任じられた。ときに三十才の若さであった。一六五九年(万治二年)、三十六才のとき、尚賢王の長子尚貞公(一六四五—一七〇九、のちの尚貞王)の会計事務官となって鹿兒島に随行し、約一年間滞在した。賢忠は鹿兒島に滞在中、謡曲、舞踊、茶道など日本芸能を学んだといわれる。一六六一年(寛文元年)には平等之側(裁判所長)、一六六四年(寛文四年)には御鎖之側(外務長官)に任じられた。一六六六年三たび鹿兒島に派遣され、帰国後紫冠を賜わり、姓を田場に改めて田場親方と称した。同年、羽地王子朝秀(向象賢、一六一七—一六七五)が摂政に就任した。羽地は具志川王子尚亨(尚豊王の弟)のあとを受けて摂政になり、薩摩入り後の琉球の政治、経済、文化の各方面にわたり思いきった改革を断行した人物である。

賢忠官職を追放される

一六九九年九月十一日(寛文九年)賢忠の妻乙女金が四十四才で死去した。彼女は賢忠より二才の年下で一六二五年那覇出身の東風平重昌の三女に生まれ、賢忠との間に一男三女があった。

愛妻をなくした賢忠は、三年後の一六七三年、遊

女を第二夫人に迎えた。当時、賢忠は五十才で「副奉行」の職にあった。

賢忠が遊女をめかけにしたことが羽地摂政の耳にはいった。羽地は怒って、一六七三年十二月十二日付(延宝元年)で次のような綱紀肅正の命令を三司官あてに送った。

- 一、近年、首里市内やいなかにいたるまで、遊女を家庭内にかかえ置くことは、毎年禁止を申しつけてあるにもかかわらず、命令をきかず、かえって盛んになっていることを聞いています。これに対し、いかなる処置をするか、あなた方(三司官)の考えを承りたい。
- 一、村中に遊女を隠しているものがいたら、だれでもかまわぬから、見付けしだい検挙して調査せよ。
- 一、領地や俸給をもらっている者が、遊女に金銭をつぎ込み、俸給を上げてくれというものがある。官吏として実にけしからんことである。

- 一、近ごろ、世間のうわさによれば、よい年をした者が遊女におぼれ、あるいは遊女ブローカー、または遊女に領地の管理をさせるものもいるとのこと、全く言語道断のことだ。そのうえ、若者たちがわが家に遊女を入れて同居するものもある由、このことが薩摩に聞こえたならば、同じやうの恥辱これに過ぎるものがない。かような人物はさっそく領地も俸給も返上し、隠居してどんな遊興でもするがよい。領地や俸給をもらいながら社会のじやまになることをして、平気でいる者がいたら早急に処置したい。

- 一、右の処置は大体を述べたのであって、薩摩藩からの取り締まりがゆるいため、風俗が悪くなつてゆくのは、役人の責任だといわれたら、われわれは迷惑だから前もって警告しておく。もし恨みに思う人はこの羽地が相手になる。一身上のことは少しも惜しくはない。

国家の恥にはかえられない。諸君(三司官)の返事を承りたい。

この羽地の通達の相手が賢忠であることは明らかであった。文書が十二月十二日三司官に渡されてから三日後の十二月十五日、賢忠は官職を罷免され、領地、俸給を取り上げられ、具志川間切田場村に追放されたのであった。(続)

注

- 1、真境名安興「沖縄一千年史」三二九ページ
2、伊波普猷選集上巻一一二ページ
3、琉球音楽湛水流系統図

(洪水流)

幸地賢忠—沢砥良沢—新里朝住

一六三—一六三 一六三—一七三 一六三—一七三

(鹿兒島)

照喜納名仙

一六二—一七三

玉城朝兼

(朝兼の長男)

奥平朝喜

一六四—一六六 一六八—一七〇

伊志嶺朝撫

亀川盛倫

名護良保

一七三—一八三 一七七—一八三 一八六—不明

山内盛焘

山内盛彬(現存)

一八四—一九六

松村真信

一八三—一八六

喜舎場朝賢

一八四—一九六

覚えていた王様

(そのⅡ)

前回のあらすじ。15世紀の初め、貧しいが大望をいだいたひとりの若者が、北部沖縄へ行って身を立ようとして、生まれ故郷の伊是名高をあとにした。宜名真部落で持ち主のない土地を見つけた若者は、そこを耕作しはじめたが、あまりにも収穫が多かったため、近所の農夫たちからひどくねたまれた。農夫たちのため、幾たびか危険にさらされたのち、奥間部落の親切なカジ屋の勧めに従い、中部沖縄へ行って仕事を捜すことにした。越来部落に着くとまもなく、若者は、近くの農家で仕事を見つけた。



若者は、宜名真部落にいたときと同じように、毎日遅くまで熱心に働きました。そしてまもなく、りっぱな農夫として、また信頼でき、尊敬に値する人物として知られるようになり、やがて、尚巴志の第七子、越来王子の目にとまりました。自分に仕えて特別な仕事をしてくれるよとの王子の頼みで若者は王子に仕えました。王子は、若者の冷静な、また、任務をさばくみごとな手腕に心を動かされました。

越来王子は、ふたりの兄（尚忠、尚金福）とおい（尚思達）が早死にした跡を受けて、1454年尚泰久王となりました。3人ともそれぞれ王位につきましたが、ほんの短い間だけでした。やがて、かつて北部沖縄の部落から逃げ出さなければならなかった若者に、運が向いてきました。尚泰久王は若者を首里の王宮に呼び寄せ、だんだん重い役目につかせました。若者は金丸と名のる一方、公平で有能な行政官として広く知れわたり、尊敬されるようになり、特に、那覇港で王様に代わって外国貿易の管理に当たる長官（御物城御鎖御官）としてすぐれた手腕を示しました。

1461年尚泰久王が死に、若い、わがままな王子が尚徳王となるまでは、金丸にとっては、首里ですべてがうまくいって、いきました。

金丸は、この若い尚徳王に、かつて父王に仕えたと同じように忠実に仕えようとしていましたが、王が金丸をはじめ多くの重臣たちの忠告に耳をかさず、しばしばむりな命令を出すようになったので、事態は悪くなるばかりであるとわかりました。

独裁的で無秩序な悪政が8年も続いたため、人々はついにむほんを起し、尚徳王を王位から退けました。政治的な手腕、人格、統治力で広く名を知られていた金丸は、1470年、新しい統治者、尚円王として選ばれたのです。

尚円王のすぐれた指導の下に、王府はたちまち威信を取り戻しました。

尚円王は、いろいろな急を要する仕事をかたづけ、琉球王府をりっぱな元の姿に立ち直らせると、貧しく、若い移住者であった自分を、沖縄でも最高の位である琉球王に変えてしまった多くのできごとを振り返って見る余裕ができました。宜名真部落でひどい扱いを受けたとき、どんなにつらい思いをしたか、そしてまた、奥間部落の親切な老カジ屋の助けと助言がなかったなら、きっと沖縄を去っていたであろうなどと、過去の思い出にふけるのでした。王様は、あの時自分に親切にしてくれたあの老カジ屋に対する感謝の気持ちを形のうちで、いま示すべきだと決心しました。

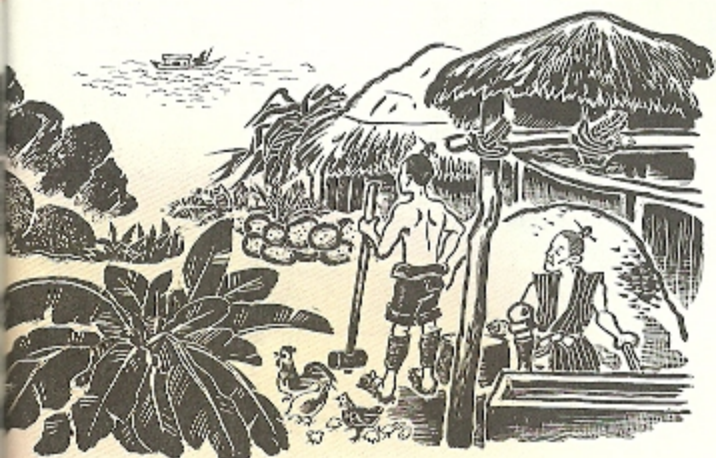
王様は廷臣のひとりをお奥間に派遣して、カジ屋の老人を捜させました。しかし、廷臣は、老人はつい最近死に、その長男が、残された家族を養ってゆくのに苦労していることを知らせてきました。

尚円王はすぐさま、その家族を救うために幾つかの指示を与えました。王様はカジ屋の家族に、奥間部落にある王府所有の細長い土地を与えました。そしてまた、この家族の者は、奥間の姓を名のってよいと申し渡しました。

王様に心から感謝した奥間家の人たちは、新しく手に入れた土地に模範的な田を作るべく、耕作に取りかかりました。これが奥間田ブクックといわれるようになったのです。それ以来500年間奥間家代々の人々は、この田を収穫の多いりっぱな青田として守り続けてきました。

昔を忘れぬ指導者、尚円王のこの行ないは、「陰徳あれば陽報あり。」という昔のことわざを思い出させます。 (終) ▲

(せそこ・ちずえ)



LEGENDS OF THE RYUKYUS

THE KING WHO REMEMBERED

(Part II)

Note: In the previous installment it was related how a poor but ambitious young man left his native Izena Island in the early part of the 15th century to seek his fortune in northern Okinawa. Finding some unoccupied land near Ginama Village, the young man began farming on it and was so successful that he incurred the fierce jealousy of some of his farmer neighbors. After receiving some threats from them, the young man decided to follow the advice of a friendly Okuma blacksmith and go to central Okinawa to seek employment. Soon after his arrival at Goeku Village, he found work on a nearby farm.

* * *

As he had done previously in Ginama Village, the young man worked hard and long hours each day and soon became known as a grower of fine crops and as a trustworthy and honorable individual. Eventually he came to the attention of Prince Goeku, the seventh son of King Sho Hashi. The Prince began to ask the young man to perform special tasks for him and was impressed with the calm and efficient manner in which he accomplished these missions.

Prince Goeku became King Sho Taikyu, in 1454, following the early deaths of two older brothers (Sho Chu and Sho Kinpuku) and a nephew (Sho Shitatsu). All three had served as King but for only very short periods. Then good fortune came to the young man, who once had to flee from a northern Okinawa village. King Sho Taikyu brought him to the Monarchial Court at Shuri and gave him ever-increasing responsibilities as a key member of his staff. The young man, who meanwhile had adopted the name of Kanemaru, became widely known and respected as a fair and able administrator, especially during his excellent performance of duty as chief supervisor of exports and imports at Naha Port on behalf of his King.

All went well at Shuri for Kanemaru until 1461, when King Sho Taikyu died and the reins of government passed to his young and headstrong son, King Sho Toku. Kanemaru tried to serve the young King well, just as he had for his father before him, but found the situation becoming increasingly difficult since King Sho Toku often ordered drastic governmental actions that were contrary to the recommendations of most of his senior court officials, including Kanemaru.

After eight years of dictatorial misrule, the people finally rebelled and forced King Sho Toku to abdicate. Because of his widespread reputation for administrative skill, personal integrity, and governing ability, Kanemaru was selected, in 1470, to become the new royal ruler, King Sho En.

Under the skilled guidance of King Sho En, the Monarchial Government quickly resumed its position of power and leadership.

After completing the flurry of various emergency actions required to get the Monarchial Government of the Ryukyus back into efficient operations, King Sho En found time to reflect on the many events that had

taken place to change his status from a poor, young emigrant to the highest official on Okinawa, the King of the Ryukyus. The King remembered how discouraged he had been after his harsh treatment at Ginama Village and how he might have left Okinawa had it not been for the help and advice of the kindly old blacksmith of Okuma Village. He resolved that now he should do something tangible to show the old blacksmith how much he appreciated his kind deeds towards him.

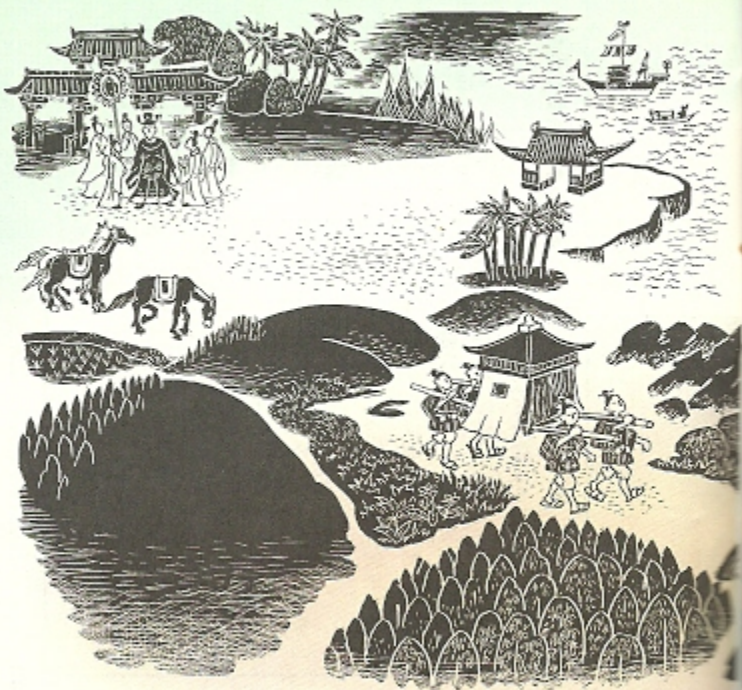
The King dispatched one of his high court officials to Okuma to find the old blacksmith. The official found that the old man had only recently died and that his oldest son was having difficulties in trying to support the surviving members of the family.

King Sho En immediately directed several actions to help the family. He presented a strip of land adjoining Okuma Village, which had been owned by the Monarchial Government, to the blacksmith's family. He also decreed that the family could adopt the family name of Okuma.

Feeling great gratitude to the King, the Okuma family then set to work to create a model farm on their newly acquired land, which was given the name *Okuma Tabukkwa*. For the next five centuries, succeeding generations of people from Okuma have kept this plot of land green with fine crops of rice.

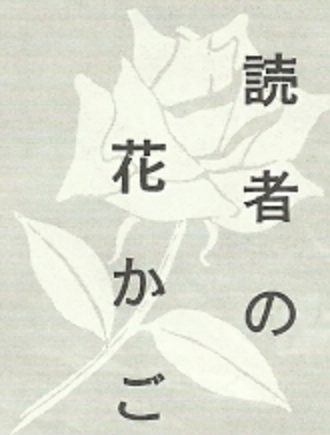
This action by King Sho En, the leader who remembered, reminds one of the old saying, "One good deed deserves another."

—By Chizue Sesoko



読者の

花かご



詩

具志川市具志川三〇八

知念圭子

不幸な人

何が楽しいの
何が悲しいの
私にはわからない
私は幸福を求めない
私には不幸もない
幸福でも不幸でも
私は生きる
幸福でも不幸でも
生きていることに変わりはない
きょうも私は活動する
夢もなく
あすのことも考えないで
「不幸な人」だと人は言う
私は思う
「そうだろうか」と

長野県上伊那郡飯島町本郷

遠山浩子

青い序曲

小さな村に夏がやって来た
山や海に夏が訪れた
青い空に金色に輝く太陽が
すらりとこのびた日まわりもうれしそ
う
海には人がいっぱい
山に小鳥がうたう 楽しい歌を……
眠い目に朝日がまぶしい
ブルーのカーテンを通して
さわやかな朝の光が……
カーテンをさっと開く
そして窓をあける
金色の光がへやにさし込む
ポプラのこずえを通して
いくすじもの光が朝顔の葉に落ちる
ぬれた葉が銀色に光る
キラキラ キラキラ……
私の一日が始まる
朝の日課をすませ
ポプラ並木を抜けて
村のはずれの小さな裏山へ行く
ここを私は「詩の丘」と呼ぶ……
この丘から朝の列車を一つ見送って
草の上に寝ころぶ

具志頭村字具志頭二五五

本部弘子

星の涙

広い夜空を見ていたら
急に駆けてみたくなりましたので

寂しかった私の心

悲しかった私の胸の中

楽しくはしゃいでいた私

そんな私が入り交じって

不思議な気持ちになったんです

だから夜空のかなたに輝く

青い空に向かって叫んだんです

「恋、ってなあに……」

涙ってどうして出るのって

おしえてえ……と

でも何の答も帰ってこなかった

だからよけいに寂しくなって

駆け出したんです

不思議な気持ちを追いかけて

そしたら流れ星が二つ落ちてきたん

です

それが細かくこわれて

星のかけらになって

私の手のひらに落ちてきたんです

冷たい

それは星の涙でした

宮古水産高校三年

森 昇

海とおれ

窓をあけると

アツカイおれの海が見える

遠い水平線のかなたから

アツカイ白いきばをむきだしで

猛スピードで迫ってくる

そんなおまえが好きだ

だが、もう少し待ってくれ

おまえの挑戦を受ける準備をしてい

るから

その時まで

アツカイおまえ 待っててくれ

準備が終わったら

その時こそ

おまえとおれの

一対一の勝負だ

短歌

那覇市首里平良町二の二一六

安次富 寛盛

雨去ればのどかなりけり冬の庭
光やさしく野菊ゆらめく

俳句

石川市宇石川四二七

荒川 星作

太陽をはねてる真冬の字は感中



★「読者の花かご」に俳句、短歌、詩をたくさんお寄せください。その他、心暖まるニュース、おもしろいこと、御感想、御意見など、なんでも歓迎します。日本文でも、英文でも自由です。★字数は一〇〇字以内、氏名、年齢、職業、住所を明記のうえ、編集部へお送りください。

